



昭和40年ごろの古荘家。地震後の片付け時に発見された写真(古荘直樹さん提供)

残したい

特集

古里の古民家

たかから

近年、宿泊施設やカフェとしての利活用で注目されている古民家。益城町にも古いもので江戸時代にできた建物があり、後世に残すための取り組みが進められています。

平成27(2015)年の熊本県近代和風建築総合調査で確認された町内の古民家は約130軒。その多くが翌年に発生した熊本地震で甚大な被害を受け、失われてしまいました。保存・活用を望む所有者の意志のもと8軒が修復され、後世に残すため利活用が進められています。写真の古荘家も、その1軒です(7ページで紹介)。

明治時代以前の特色を表し、再び造ることができない伝統建築物を、古里のたからとして守り、残す。その背景には、町文化財保護委員長でヘリテージ

マネージャーの松野陽子まつのようこさんの働き掛けがありました。今回は、松野さんや所有者の思いと、利活用に向けた取り組みを紹介します。



▲現在の古荘家